

新作能『貫一・お宮』—謡いと語りで—：感想

(熱海市起雲閣、2018. 1. 27)

(掲載お断わりしてない方もありますが、貴重なご感想なのでお許し願います。編集)

熱海で毎年行われている尾崎紅葉の「紅葉祭」に、今年は「貫一・お宮」の新作能が「謡いと語り」で起雲閣で行われるとのこと。しかも会場で台本がもらえるとのこと。「金色夜叉」は熱海にとって大切な物語のため、期待して出席しました。

斎藤熱海市長夫妻をはじめとして盛況の会場で、お宮の手紙が書かれた後の、未完成だった物語の結末までを、興味深く聴かせていただきました。(お話中、私語が出たとき、私語が終わるまで待ってから、話中には私語がないようにと、こういう大きな会場ではっきり指摘されましたが、この指摘は大事な事だと同感しました。)

またゆっくり話す日本語はよいものだと感じながら、1 時間半、貴重な時間を頂きました。会場満席でしたが、ぜひもっと大勢の人に聴かせたかったと思いました。今年は紅葉生誕 150 周年記念でしたが、熱海市民の為にも観光客の為にも、来年もぜひお願いしたいです。なお、先生の紋付袴姿はよくお似合いで堂々として立派でした。 **石垣嘉克** (熱海市、石垣書店)

私は 85 年という長い年月を日本人として生まれ育って参りましたのにも関わらず、御能という世界に殆ど興味を抱くこともなく生きてまいりました。しかし、今回の新作能の「金色夜叉」は既にストーリーも概ね知っておりましたし、詳しい解説もありましたので大変よく理解でき、出来れば能舞台でそれぞれの役者が演じたなら、なお一層楽しむことが出来たでしょうと思いますが多分それは、いろいろな面で簡単なことではないでしょう。

先生のお話の中で一番心に残っておりますのは、能の中では汚い言葉は使わないということです。昨今の小説など読みましても会話の中に、特に女性同士の会話が乱暴と思うことが屢々ありましたので大変、印象的でした。又御能は平和を中心に掲げているということも素晴らしい日本の文化と思わせて頂きました。 **亀山 邦** (熱海市)

「貫一・お宮」シナリオ拝読させていただきました。私が「金色夜叉」という作品の存在を知ったのは、中学 1 年の夏、熱海で目にした貫一お宮の銅像でした。母曰く、結婚の約束をしていたのにお金持ちとの結婚を選んてしまった悲劇、その一場面を象徴するものであるという事。

その後、原作を大人になった今まで読んだことがなく、浅い解釈しか持ちえませんでした。今こうして先生のシナリオを読ませていただいて、すごく印象に残ったのは、最後の一文、「熱海の海岸散歩せる、金色夜叉とは誰やらん。熱海の海岸散歩せる、金色夜叉とは誰やらん」。

貫一にもお宮にも夜叉のごとき守護神のような側面と悪鬼のような側面が存在して、弱さ故に悪鬼に惑わされてしまうこともある。お互いが己の悪鬼に翻弄されて悲しくも美しい結末を

迎えてしまう。美しい月夜に照らされ熱海の海岸を散歩するのは貫一・お宮であり、またか弱き心を持った人間達なのではないか、そんな風に感じました。先生が作り出した新しい物語によって「金色夜叉」という作品への想い、またタイトルに込められた想い、自分なりの解釈が持てました。

映画や文学の解釈はひとつではなくて作品を味わった人が自由に想像する、幾通りもの解釈があって、それもまた楽しいものだと最近感じています。今回残念ながら「謡いと語り」を体験できなかったのですが、美しくも悲しい物語を拝読させていただき有難うございました。

亀山 恵（静岡市）

とても和やかな会で、天国的な時間でした。 **木俣かおり**（神奈川県）

私は能を見たことは数回しかありませんが、今回「謡いと語り」という形で能を体験することができ、とても刺激を受けました。合間合間に話される先生の話がとても内容が深く、新しい価値観を感じたように思います。新作能ということで、オリジナルの作品として能の古典的な形式にこだわらない作りでしたので、とても斬新で新しいと感じました。原作『金色夜叉』の男尊女卑の印象を受ける銅像のイメージを一新したいという思いがあったということで、そういった心もとても感じることができました。私は原作を読んではいませんが、引き込まれる世界観を感じとりました。こういった地元を題材にした作品が、地域の活性化にも繋がっていくことを願っています。今後もシェイクスピアなど、先生の他の作品を見に行かせていただきたいと思います。 **木俣和也**（神奈川県、大学生）

伊豆の日金・熱海を語る会、みもぎの会主催の「尾崎紅葉生誕150周年記念『金色夜叉』による新作能『貫一・お宮』～謡いと語りで～」が起雲閣にて行われました。

この能は、静岡大学名誉教授 宗片邦義氏が「金色夜叉」のイメージを一新したいとのことで書き上げられたもので、ところどころに作品や能についての解説も交えながら、わかりやすく、また独特なリズムで披露していただきました。

宗片氏の迫力ある演技と、原作にはないラストシーンにより、大勢の観客が魅了された公演でした。 **斎藤 栄**（熱海市長）（『市長動静フォト日記』より転載）

新作能『貫一・お宮』の救い

久しぶりに 宗片さんの新作能を 見・聞いた
そして 最後には 涙をおさえることができなかった
帰ってそのプリントを読みなおしても 涙が出るほどの
ことはないのに どうして そう あの 独吟が
ことばが 吟じられることによって それが心の琴線に

ひびくのだ 使い古されたことばが 生きてくるのだ
 死んだ言葉に生命が与えられるのだ ことばの復活だ
 それがあゆみと静けさの声で 心の奥底が 震え
 させられるのだ すると自分の過去が 貫一・お宮と
 一緒になって じわーっと 涙が流れてくる そう
 これが真の芸術なのではないか このような芸術に
 よって カタルシス（浄化）が なされるのではないか
 最後には 多分原作にはない 死後の世界を述べる
 ことによって 現世で果たせなかった 霊の一致を見て
 二人して 舞いながら消えていく まさに 涙の中の
 仕合せ 私たち 涙ながらに ホッとして
 宗片さん ありがとう 感謝の思いで
 帰ってきました ありがとう ありがとう と

(二〇一八・一・二七 佐藤健治、伊東市、日英翻訳家)

夜の会も たのしく
 いつものことながら こういう会での
 宗片さんのやり方 全く同感で ほかの会でも宣伝してます
 一分間スピーチが終わって 「次」が いいですよ
 その頃には お酒も ほどほどにまわってきて
 ズバリ 思うことを言うことが できるように なるのですよね
 いい気持ちで 宗片さんの 芸術性 を語れたのでした
 こんなこと語れるとは いい仲間だと思いました
 市長さんが 分からないところがあった というのは
 最後に 霊となって 仲良く出ていく所ではなかったか
 最初 能の歴史を話されたのは とってもよかったが
 その時 二人は霊となって 結ばれる ことにふれられたら
 市長さんも分かったのではないかなと 思われました
 いつものことながら 死んだことばに 生命を与えられるの
 きかせてもらい ありがとうございました サケン (佐藤健治、はがき、2月8日)

先生の『貫一とお宮』のご発表、まことにつたない私ながらの理解力ではございますが、
 先生の人生観、芸術観など伺え、大変興味深く、また楽しませていただきました。

先生の幅広い着眼点には教えられるところが多く、東洋対西洋、欧対亜細亜を加味なされた

上での先生の日本の、否、この熱海の地域に対する先生の姿勢、教えられることばかりでございました。 **的場淳子**（熱海市、聖心女子大名誉教授）

本日は大変楽しい時間をすごさせていただきました。今日見させていただくまでは『金色夜叉』はお能になるのか疑問を持っておりました。どちらかと言うと苦手な物語で、海岸のモニュメントもあまり目を向けたことがありませんでした。しかし後場の展開を聞かせていただき、見事に『金色夜叉』が宗片能になっていたのに感動しました。「分からない部分もありましたが」という意見もありましたが、「我夢むるにあらずや」のところを指していられるのかなぁと思いました。貫一が聞いたのは夢か現か、現世なのか死後なのか。しかし宗片能を体感して来たものにはこれは大きな問題では無く、この世とあの世には心の境界が無いこと、「赦す＝forgiveness」の心が皆を幸せに導くことは周知のことです。久しぶりに触れた先生の能の世界に心が洗われました。ありがとうございました。80を過ぎてからいよいよ意欲が出て来たと言うお話ですから、これからのご活躍をますます楽しみにしております。写真を添付させていただきます。 **安田 保**（伊東市）

「金色夜叉」明治時代の大長編小説、今となってはやや難解な文章で、よくあれを分かり易く、しかも現代語による新才能にまとめられたものだと感心しました。作者自身の語り語りで、これがよく、感動しました。 **無記名**